

邸園の概要

所在地 小田原市南町 1-5-73
建設年 明治 39 年（1906）
構 造 木造／2 階建／瓦葺
その他 国登録有形文化財（平成 17 年 7 月 12 日）



明治ゆかりの邸園

清閑亭は、近代日本の議会政治の功労者である黒田長成侯爵が別荘として建設した建物です。

邸園の概略

清閑亭は、旧福岡藩主家当主である黒田長成^{ながしげ}侯爵の別荘として建設されました。

黒田長成は、宮内省の式部官、貴族院議員、修猷館（福岡藩の藩校で、現福岡県立修猷館高等学校）の第 3 代館長を経て、明治 27 年(1894)から大正 13 年(1924)までの約 30 年間にわたり、貴族院副議長を務めた人物です。

建物は、侯爵別邸に相応しい書院造りで格式を保ちながらも、別邸らしい近代数寄屋の特徴を随所に見ることができます。またこの地は、小田原城の三の丸土塁の一角を占め、小田原の町や相模灘を一望するすばらしい眺望に恵まれています。

この地には黒田家のほか、閑院宮家、山下家(旧山下汽船創業家)、北原白秋など、数多くの文化人、実業家、政治家、軍人が別邸・別荘を構えていました。

明治 39 年(1906)に黒田家の別荘として建設され、昭和 15 年（1940）に旧広島藩主浅野侯爵家に譲渡されました。昭和 38 年（1963）には浅野家より第一生命保険会社に売却され、役員等の保養施設及び社員研修所として使われました。

平成 17 年(2005)に建物が国登録有形文化財に登録され、平成 18 年(2006)には敷地が国の史跡に指定されました。平成 20 年(2008)より小田原市の所有になっています。

現在は、NPO 法人小田原まちづくり応援団が、小田原市より「清閑亭を核とする歴史的風致維持向上事業」として運営を受託し、小田原文学館や松永記念館などと合わせて、小田原邸園文化の魅力を高めるための企画や連携事業を実施する拠点となっています。